

福生三中だより

令和7年12月1日発行 No.7

学校教育目標

- 1 よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒
- 2 ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒
- 3 責任を果たし、みんなのために働く生徒
- 4 美しいものを求め、豊かな心をもつ生徒

校訓 礼 節

「自分事」

校長 増木 一 仁

2学期も残りわずかとなりました。この11月、本校では生徒会を中心に、地域とつながる活動が数多く行われました。その中でも、生徒会主催のボランティア活動「落ち葉掃き清掃」には、全校生徒の半数近くが参加しました。また、地域の方々を講師に迎えて行った「地域の方々から学ぶ」では、参加した生徒全員が、講師の先生方へのお礼状を書きましたが、教えていただいたことへの感謝とともに、自分の生活や将来の目標と結びつけて考えることができていました。

地域の方々に学ぶ14講座

「江戸の和算から学ぶ」 「太陽系の歴史のつかみかた」 「気象と防災の話」

「大正琴を弾こう」 「SAVE MY TOWN 消防団」 「福生天王ばやしの演奏と習得」

「環境にやさしいエネルギーとガス会社のお仕事」 「保育園と保育士の仕事」

「やってみよう太極拳」 「俳句を楽しむ」

「新しい自分をみつけよう! ~ボランティア活動の5つのメリット~」

「モルック」に挑戦!」 「ジャズってなあに?」 「フラダンスに挑戦!」

今年度も多くの皆様にお世話になりました。ありがとうございます。

最近、学校や社会でよく耳にする「自分事」という言葉は、物事を他人任せにせず、自分の問題として捉え、考え、行動する姿勢を意味します。

「落ち葉掃き清掃」のように自分の時間を使って地域のために働く姿は、まさに「自分事」として考え、行動する力の表れです。誰かに頼まれたからではなく、「自分にできることは何か」を考えて動く。この一歩が、学校をより良くし、地域との絆を深める大切な力になります。また、「地域の方々から学ぶ」で見られたように、単なる知識の習得にとどまらず、「自分事」として学びを深める姿勢は、これからの社会で求められる力です。学んだことを自分の人生にどう活かすかを考えることは、主体的な学びの第一歩です。

これからの社会では、課題を自分のこととして考え、仲間と協力しながら解決する力がますます求められます。小さなことでも「自分にできることは何か」を考え、行動する習慣を身につけさせていきたいと思います。それが、生徒たちが未来を切り拓く力になります。

寒さが厳しくなる季節ですが、健康に気をつけながら、次の目標に向けて一歩ずつ進めさせていきたいと思います。保護者・地域の皆様には、日頃より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。
(裏面割愛)